



農業にも営業力！ 事業を通じて、 地元を活性化したい

事業所名：もりのこカンパニー
所在地：〔生産地〕井原きのこ園
山口市徳地船地1610
〔共同作業場〕るりがくえんきらら夢 KOBO
山口市宮野上783
代表者：井原 真治
TEL：090-6756-1222
事業内容：原木しいたけ生産販売

受講したことがきっかけです。ここで事業計画の作成方法を学び、融資を受ける際にも役立ちました。その後参加したビジネスドラフト(※2)では、県内の様々な企業の方と出会うことができ、生産したしいたけを実際に消費する側から見た商品バリエーションや包装の仕方など、今後の販売戦略に関するアドバイスをもらえました。私は、縁は自分を磨き続けることで、引き寄せるものだと思っています。良い縁は大事にしたいですね。



ふるさと納税のお礼品にも登録

チャンスに強く、ピンチに負けない！

自分の中では、これから5年間が勝負だと思っています。今年は、るりがくえんと協力して生産事業を展開していきますし、2020年までに全国へ販売ルートを拡大することが目標です。最終的には、事業を通して徳地を活性化したいと思っています。そのためにも、やってきたチャンスを活かし、降りかかってきたピンチに負けないよう、日々勉強して前向きに精進していきます。

- ※1 起業カレッジとは
起業に興味がある方から起業後間もない方までを対象に、各段階に合わせて起業の基礎知識から学び、実践的な事業計画書の作成までをおこないます。今年度は終了しました。
- ※2 ビジネスドラフトとは
山口県内の商工会議所会員事業所を対象とした、販路開拓や事業提携、技術支援等、新たな企業との完全予約型商談会。今年度は2/2・3に下関で開催。



約30年ぶりの地元で実感した高齢化

私は徳地出身で、実家は原木しいたけの生産農家をしています。大学の時に大阪に出て、大阪と京都で会社勤めをした後、退職を機に家業を手伝うことになりました。約30年振りに帰った地元は過疎化が進んでいて、高齢化も伴っていたけの生産量が年々減少していました。しいたけ生産者の多くが60代以上になっており、自分の年代より下がない状況を目の当たりにして、これはどうにかしなければいけないと感じました。



原木がずらりと並びます

農業のイメージを変えたい！

営業するには、生産量を確保しなければなりません。そのためにも、若い担手を増やす必要があります。一般的に農業は、家族経営で土日休みがなく、重労働というイメージがあると思います。また、生産した物は全てJAや組合に出荷するので、個々の農家が特に営業することはありません。将来的な計画ですが、これを会社組織にすることで、生産をしながらも土日の休日を確保し、県内外に積極的な営業を行うことで収益を確保することができます。それに収穫の喜びがプラスされることで、若い人にとっても魅力のある産業になるのではと考えています。

今は1人で徳地と京都を拠点に、原木しいたけの生産・販売を行っています。京都は山口以上に地元愛が強く味に厳しい所ですので、ここで消費者に選ばれることは自信になります。また、国内外からの観光客も多いので、絶好のPR場所だと思っています。

縁を大事に。会議所は背中を押してくれるパートナー

私は1人で事業をしているので、考えが煮詰まったり足踏みしているときに相談でき、背中を押してくれる商工会議所の存在は有り難いです。会議所との関わりは、本格的な起業に向けて経営を学びたいと思い、起業カレッジ(※1)を

味と香り高い原木しいたけへのこだわり

しいたけには、原木栽培と菌床栽培のものがあります。原木栽培は、クヌギの原木にしいたけの菌を植え付け、約2年掛けて収穫が出来る状態になります。その一方で、菌床栽培は、安定した収穫が出来ることから、近年生産量が増加しています。手軽な菌床しいたけですが、味や香りは原木しいたけの方が優れています。昔から贈答品として好まれており、徳地では、原木しいたけにこだわって生産されています。生産量こそ落ちていますが、味は生産量全国1位の大分にも負けません。私は以前営業をしていましたが、売り方次第で伸びる産業だと思いました。農業にも営業力は必要です。



肉厚な原木しいたけ